

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会
令和4年度第12回 理事会 議事録

日時：令和4年12月19日（月）14:00-15:00

場所：山梨大学大学院整形外科学講座／Zoom

【出席した理事】伊東 学、大鳥 精司、高橋 寛、竹下 克志、田中 信弘、
筑田 博隆、土井田 稔、永島 英樹、中村 雅也、西田 康太郎、
根尾 昌志、橋爪 洋、波呂 浩孝

【出席した監事】小澤 浩司、播広谷 勝三

【議事の経過の要領及びその結果】

会議は理事長・波呂浩孝が議長となり、web で行われた。

審議・決議事項

1. 前回議事録の確認

修正等ある場合は大鳥理事へ一報する。

2. 大正アワードの応募要件について

大正アワードの応募条件に毎年問い合わせがあり、実際曖昧な点があるため、応募条件の見直しを提案した。

混乱を招くのは、

- ① 近年様々な出版形態があり、例えば online ahead of print は in press とするのか掲載されたとするのが明確ではなく、場合によっては online ahead of print 時と最終出版時の2年に渡ってチャンスが生まれ、公平性を欠く危険性があること。
- ② 論文掲載と学会発表の両方を条件としているため、選考時どちらに重みを置くか、論文内容と発表内容との整合性をどう評価するかなどの問題があること。また、論文掲載時と発表時期とが条件にうまく噛み合わず、優秀な論文が応募できない可能性があること。

の2点である。

多くの議論がなされたが、

- ① については、アクセプト時をもって応募条件とすること。
- ② については、従来の選考過程に倣い、客観的厳密に判断できる論文で選考すること。発表については、受賞論文は、発表歴の有無にかかわらず、翌年（受賞時）の学術集会で、受賞講演として発表してもらうこと。

で一同承認した。大正製薬の担当者との応募条件変更について相談し、改めて理事会で詳細を検討することとした。

3. 教育研修委員会：次回研修コースの概要と参加費の一部変更の件

第 21 回脊椎脊髄病研修コースについて、第 52 回学術集会会場では研修会コースの会場が確保できないため、移動に時間を要する別会場(ロイトン札幌)で開催する。会場は離れるが基本的には現地参加を促す方針で、研修コース I のオンライン参加費を 25,000 円(+7,000 円)に値上げしたい。研修コースの定員は概ね例年通りである。

一同検討の結果承認した。

4. メンバーシップ・コンプライアンス委員会

11 月の入退会について全員を承認した。

事務局から、バクスター株式会社の賛助会員の入会申請があり、12 月中に支払いを完了させたいとの意向であるのでこの理事会で審査してほしい旨依頼があり、異議なく承認された。

5. 第 57 回学術集会会長の件

第 57 回学術集会会長立候補に申請者 1 名の応募があり、一同承認した。

申請者 山田宏 (和歌山県立医科大学医学部整形外科学講座)

審議・報告事項

1. 財務委員会報告

1月上旬に各委員会および学術集会大会長に予算申請の提出をお願いする。締切は2月上旬から中旬の予定である。

2. 国際委員会報告

1) ATF 再開状況

2019 年 ATF に選出された対象者 10 名中 8 名は渡航希望があり、受け入れ施設と連絡を取り合い順次対応していく。

2) Spineweek2023

2023 年 5 月 3 日の午後に JSSR セッションがあり、44 演題の応募があった。国際委員会で査読を行い、プログラム編成を練っている。

3) KSSS2023(韓国)招待

JSSR から波呂理事長と数名が参加予定である。

4) Spine Across the Sea: July 28-August 1, 2024

次回 Spine Across the Sea が 2024 年 7 月 28 日から 8 月 1 日までハワイ、カウアイ島の Grand Hyatt Kauai Resort & Spa で開催される。初開催から 30 年のメモリアルな会で、日本側の代表は渡辺雅彦先生である。

3. COI 委員会報告

不備書類の再提出を依頼していた役員・委員の COI 書類について、委員会で書類審査を行った結果、不適

切な利益相反状態はなかった。

4. 広報委員会報告

一般社団法人日本損害保険協会から、次年度から脊椎脊髄病関連のテーマの研究助成事業を増やしたという申し出があり、ホームページの「会員・医療関係者の皆さん」向けのお知らせに掲載した。

5. 指導医制度委員会報告

2022年度の指導医新規申請、継続申請について、名誉指導医7名、継続申請284名、新規申請114名は全員合格、猶予申請7名中3名は不合格とした。コロナ禍でもハイブリッド開催やオンデマンド配信をして受講できる環境は提供されているため、不合格者3名の受講漏れは猶予の正当な理由として認められないと判断した。次回理事会で審査結果の詳細を報告する予定である。

また、次年度も同様に新型コロナの感染拡大を理由とした猶予申請は不可との結論になった。

2024年度の継続申請から、申請症例としては2022年4月以降にJSSR-DBに登録されている症例を使用することになる。予め会員にHPやNewsレター等で入力方法の詳細や事前の対応を周知する予定である。

JSSR-DBと指導医制度の症例データ連携は理論上可能だが、システム改変には時間と費用がかなりかかる。連携のための詳細は金村理事及び会員情報を管理する事務局と引き続き検討していく。

6. 社会保険等システム検討委員会報告

日整会症例レジストリーJAONRに入力された脊椎手術の手術時間に明瞭な外れ値（PLIFの手術時間1分など）があるため、日整会から他の関連学会と共にJSSRにも入力値精査の依頼があった。日整会社会保険等委員会では各関連学会から提出された調査をまとめ、JOANRの手術時間入力の際にアラートを出すことになった。

7. その他の委員会報告

・プロジェクト委員会の委員追加について

脊椎脊髄関連の診療ガイドラインに関する新規プロジェクト立ち上げを、プロジェクト委員会橋爪担当理事と海渡委員長に依頼し、宮腰副委員長が主体となって進めてもらうことにした。新プロジェクトを立ち上げるにあたり、新委員として粕川雄司評議員(秋田大学医学部附属病院)を追加することが提案され、一同承認した。

・安全医療推進委員会報告

某県警から、術後に循環器系トラブルで早期に亡くなった事例があり、脊椎手術と循環器疾患の因果関係について意見が欲しいと学会に問い合わせがあった。委員会では、県警からの要請であれば学会として一般論を回答することはやぶさかでないとなったが、学会員が対象の事案なのでJSSRとしてどのようなスタンスで回答すべきか意見を聞きたい。

一同議論の結果、会員の事案であるため内容の詳細は求めず、あくまでも一般論として回答することで一致した。対応は、委員会の提案通り該当地域近隣の委員である寺井委員(大阪公立大学)に依頼し、正式な報告前に理事会で確認することとなった。

12. その他

・メドトロニック社からの報告書類の件

メドトロニックソファモアダネック株式会社から文書で3件の報告が届いた。

・METRxTMエンドスコープアタッチメントの複数の単回使用許可製品は、先月の報告後、再度遅れが生じ2月末以降に日本国内入荷予定のスケジュールになる。

・グラフトンパティ製品の在庫欠品があり、安定供給再開時期は未定である。

・0-arm イメージングシステム(タイプ1)は2024年末をもってサポート終了となる。

これら3件の情報をホームページに公開する。

・第97回日整会のシンポジウムの提案依頼の件

第97回日整会シンポジウム案については2つの委員会からシンポジウム案の提案があり、内容を確認した。提案されたシンポジウム案は事務局から提出する。

以上

令和4年12月19日

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

議長 理事長 波呂浩孝

監事 小澤浩司

監事 播広谷勝三